

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 1 日現在

機関番号：34429

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009-2011

課題番号：21520614

研究課題名（和文）EFL ライティング・ルーブリックの検証と運用

研究課題名（英文）The examination and classroom use of an EFL writing rubric

研究代表者

正木 美知子（MASAKI MICHIKO）

研究者番号：80229351

研究成果の概要（和文）：当研究グループが開発したライティング評価のためのルーブリックに関して信頼性・妥当性の検証を行った。その結果、信頼性は確かめられたが評価項目によっては妥当性に欠けていたため、修正を行った。そして、どのような被験者に対しても適切な評価ができるように、ルーブリックはレベル別の記述をやめ、評価項目のみ記述し、レベルは評価者が設定できる様式に変更した。また、そのルーブリックを教室において書き直しツールとして使用し、使用者の認識調査と英作文の改善を調査した。使用した学生は、「内容・展開」、「構成」においてその使用が有効であると感じており、実際に彼らの英作文は書き直しツールとしてのルーブリックの使用後、総合評価および各 dimension の評価において向上した。

研究成果の概要（英文）：We examined an EFL writing rubric, which we developed for Japanese college English education, in terms of reliability and validity. As a result, we confirmed its reliability to some extent, but the validity was weak in a few dimensions. Therefore, we revised the rubric to improve the validity. We also changed the rubric so that it has several defining descriptions under each dimension and no preset scales. It enabled raters to set a score range freely according to the level of subjects. In addition to the use of the rubric for evaluation, we used it as a revision tool in classroom. The students who used it as a revision tool thought it effective in two dimensions: “idea and development” and “organization,” and actually their post-essays improved in the general assessment and assessment in each dimension.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 22 年度	400,000	120,000	520,000
平成 23 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：教育評価・測定

1. 研究開始当初の背景
ルーブリックは評価ガイドラインのことであり、ライティング評価におけるその使用の必要性は多くの教員が認めるところである

が、実際に使用している教員は少ない。それは、一つには既存のルーブリックの中に日本の教育環境に適したものを見つけるのが難しいことによると思われる。日本の教育環境

において使いやすく且つ信頼性のあるルーブリックを開発することを目指した。また、ルーブリックが評価基準であるということは、即ちそれは指導の目標にも成りうるのではないかと考え、評価以外の使用法も探ることとした。

2. 研究の目的

当研究グループが開発したルーブリックを、日本の教育環境において使い易く、信頼性のあるものにしていくこと、そしてその教室での有用な運用を探ることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

当研究グループが開発したライティング評価のためのパイロットルーブリックを教室での使用に基づき改訂を行い、ルーブリック2008を作成。更に、ルーブリック2008を使用して英作文を評価し、一般化可能性理論に基づき、評価の信頼性と妥当性を検証。明らかになった問題点を解決するためにルーブリック2008を改訂してルーブリック2009を開発した。次に、ルーブリック2009を用いて英作文を評価し、再度、一般化可能性理論を用いて信頼性を検証した後、ルーブリック2008とルーブリック2009を比較。ルーブリック2009の優位性を確認した。また、再度その信頼性と妥当性を検証するため、ネイティブ教員と日本人教員に英作文を評価してもらい双方の評価の相関分析を行った。評価の質的な面を見るために、両者の評価の理由を記したものをKJ法を用いて分類・考察した。その後、ルーブリック2009を書き直しツールとして教室で使用、学生に対してその効果や使い心地を尋ねる質問紙調査を行った。英作文の質の向上に関しては、日本人教員4名にポストとプレの英作文を評価してもらった。

4. 研究成果

上記の研究を通じて、パイロットルーブリックを改訂し、ルーブリック2009を開発することができた。また様々な方法によりその信頼性と妥当性を確認することができた。また、教室においてルーブリックを書き直しツールとして使用させたところ、「内容・展開」と「構成」において有効であると感じた使用者が多かった。そして、実際にポストエッセイの方が、総合評価およびすべてのdimensionにおいて向上していた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 金志佳代子、久留友紀子、正木美知子、山西博之、大年順子

Revising a Writing rubric for Its Improved Use in the Classroom、LET

関西支部研究集録、査読有、Vol. 13

[学会発表] (計5件)

- ① 久留友紀子、正木美知子、金志佳代子、山西博之
授業で使えるライティング・ルーブリックの開発——具体的な解釈例の提示の試み——、第35回全国英語教育学会鳥取研究大会、審査有
- ② 正木美知子、久留友紀子、山西博之
改訂ライティングルーブリックの検証：教室での使用を目指して、JACET 関西支部2009年度秋季大会、審査有
- ③ 大年順子、金志佳代子、久留友紀子、正木美知子、山西博之
EFL ライティングルーブリックの信頼性と妥当性の検証、日本言語テスト学会(JLTA)第14回全国研究大会、審査有
- ④ 山西博之、正木美知子、金志佳代子、久留友紀子、大年順子
EFL Learners' Perceptions of a Rubric as a Writing Guideline: A Pilot Study, Symposium on Second Language Writing 2011, 審査有
- ⑤ 金志佳代子、大年順子、久留友紀子、正木美知子、山西博之
EFL 教室における書き直しツールとしてのライティング・ルーブリックの使用——学生の認識調査と教員の評価結果をもとに一、第37回全国英語教育学会山形研究大会、審査有

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

正木 美知子 (MASAKI MICHIKO)

研究者番号 : 80229351

(2) 研究分担者

久留 友紀子 (KURU YUKIKO)

研究者番号 : 00465543

金志 佳代子 (KINSHI KAYOKO)

研究者番号 : 20438253

大年 順子 (OTOSHI JUNKO)

研究者番号 : 10411266

山西 博之 (YAMANISHI HIROYUKI)

研究者番号 : 30452684

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :